

再処理工場のウラン試験時に発生が予想されるトラブル等とその対応(No. 1 - 34)

件名	焙焼炉又は還元炉の廃ガス配管における詰まり								
事象の概要	<p>(1) 発生場所・機器 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋：焙焼炉、還元炉</p> <p>(2) 発生の状況 焙焼炉、還元炉の運転中</p> <p>(3) 概要 炉廃ガス配管のウラン粉末の詰まりによる当該焙焼炉又は還元炉の炉内圧力の変動</p>								
事象による影響	<p>(1) 工場外への影響 工場外への影響は生じない。 ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋換気設備が稼働しているグローブボックス内での事象及びそれに伴う復旧作業なので、放射性物質の放出等、工場外への影響は生じない。</p> <p>(2) 安全性への影響 安全上の問題は生じない。 炉内の圧力高により炉内へのガスの供給が自動停止するため、これ以上の事象の進展はなく、安全上の問題は生じない。</p> <p>(3) 作業員への影響 作業員への影響は生じない。 炉廃ガス配管の復旧作業に当たっては、定められた放射線管理要領に従い、作業計画に沿って効率的に作業を進めることにより、作業員への影響は生じない。</p> <p>(4) 他工程への影響 上流の工程の運転に影響が生じる。 炉廃ガス配管の詰まりに起因する圧力高による焙焼炉又は還元炉の停止により、ウラン・プルトニウム混合脱硝工程の運転に影響が生じる。さらに上流の精製建屋以前の工程は、一時的な貯留槽(ウラン濃縮液第2受槽、プルトニウム濃縮液一時貯槽等)の残液量で運転継続の可否を判断する。なお、焙焼炉及び還元炉は各々2系統(並列運転)あり、片方の系統が停止しても、もう片方の系統は運転を継続できる。</p>								
対応の概要	<p>(1) 炉廃ガス配管の詰まりであることを確認する。</p> <p>(2) 当該配管に空気を強制的に送り込むことにより、詰まりを解消する。</p> <p>(3) それでも詰まりを除去できない場合は、炉廃ガス配管の詰まりをグローブ作業により除去する。</p> <p>(4) その後、定められた操作手順に従い運転を再開する。</p>								
公表区分	毎月集約して月1回公表(ホームページへ掲載)								
対応区分	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">(a) 運転継続しながら復旧</td> <td rowspan="5" style="text-align: center;"> 国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない) </td> </tr> <tr> <td>(b) 運転システムを切り替えて復旧</td> </tr> <tr> <td>(c) 当該機器を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(d) 当該設備を停止して復旧</td> </tr> <tr> <td>(e) 影響範囲の設備を停止</td> </tr> <tr> <td colspan="2"> 日本原燃による評価: レベル0以下 (放射線物質による汚染、被ばく等) 工場内への影響 (運転時降圧範囲からの逸脱等) 多重防護の劣化 </td> </tr> </table>	(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない)	(b) 運転システムを切り替えて復旧	(c) 当該機器を停止して復旧	(d) 当該設備を停止して復旧	(e) 影響範囲の設備を停止	日本原燃による評価: レベル0以下 (放射線物質による汚染、被ばく等) 工場内への影響 (運転時降圧範囲からの逸脱等) 多重防護の劣化	
(a) 運転継続しながら復旧	国際評価尺度 (INES) のレベル (レベル2以下は工場外への影響はない)								
(b) 運転システムを切り替えて復旧									
(c) 当該機器を停止して復旧									
(d) 当該設備を停止して復旧									
(e) 影響範囲の設備を停止									
日本原燃による評価: レベル0以下 (放射線物質による汚染、被ばく等) 工場内への影響 (運転時降圧範囲からの逸脱等) 多重防護の劣化									

